

今週の為替相場見通し(2023年3月20日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		131.56 ~ 135.10	131.85	129.00 ~ 134.50
ユーロ	(ドル)		1.0517 ~ 1.0760	1.0666	1.0500 ~ 1.0850
(1ユーロ=)	(円)		139.15 ~ 144.93	140.59	138.40 ~ 142.40
英ポンド	(ドル)		1.2012 ~ 1.2203	1.2181	1.1950 ~ 1.2300
(1英ポンド=)	(円)	*	158.57 ~ 164.14	160.56	159.50 ~ 163.50
豪ドル	(ドル)		0.6587 ~ 0.6725	0.6699	0.6600 ~ 0.6800
(1豪ドル=)	(円)	*	87.36 ~ 90.20	88.31	87.50 ~ 90.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第一チーム 原田 和忠

(1)今週の予想レンジ: 129.00 ~ 134.50 円

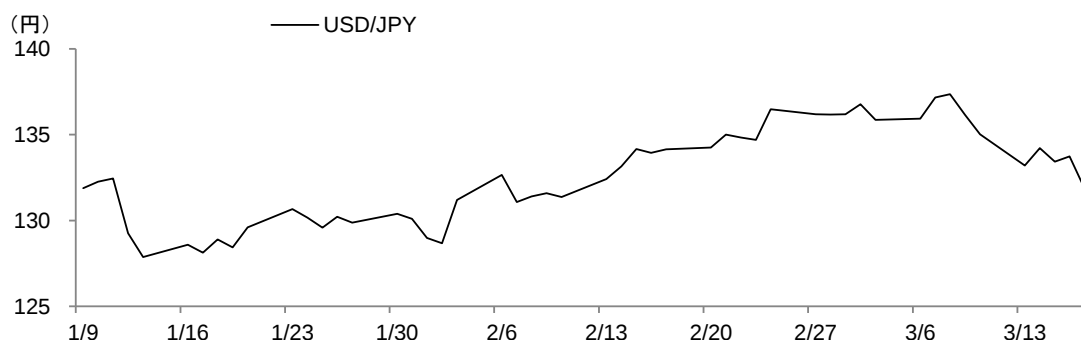
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は、米地銀の破綻に端を発する信用不安が渦巻く中、リスクオフの円買いで下落した。週初13日、134.94円でオープンしたドル/円は、米金利低下を受け値幅を伴いつつ134円台前半へ下落。海外時間は132円台前半へ続落も、株式市場の切り返しを受け133円台を回復した。14日、ドル/円は悲観ムードが若干後退し、米金利上昇を受け133円台半ばに続伸。海外時間は、米2月消費物価指数(CPI)のコア指数が+0.5%(前月比)と市場予想を上回り、米金利上昇とともに135円を目指す展開となった。15日、ドル/円は材料難の中134円台前半でレンジ推移。海外時間は米金利上昇で一時週高値となる135.10円に上昇も、欧州大手銀行に関する信用不安が取りざたされると、リスクオフから米金利は急低下、132円台前半に反落。引けにかけては、ドルの買いを受け133円台半ばに値を戻した。16日、ドル/円はリスクオフの円買いが継続し、132円台後半に下落。海外時間は、米地銀が身売りを検討との報道を受け円買いが加速し一時1か月ぶりの安値となる131.72円に続落も、その後は複数の米大手銀行が支援に乗り出す旨が公表されると円は売り戻され、133円台後半に上昇した。17日は、市場はドル売りムードとなり下落。米株式市場の下落を受けてリスクオフムードが強く、米金利低下と共にじり安となり、一時週安値となる131.56円まで下押し。その後はやや持ち直し、結局131.85円で越週した。

今週のドル/円相場は軟調推移を予想。米地銀の破綻に端を発するリスクオフムードはしばらく続きそうだ。米当局の利上げが行われる中、保有する有価証券の含み損が拡大したのに加え、いわゆる取り付け騒ぎ的な預金流出が決め手となり事業停止に追い込まれる格好となった。他の地銀も破綻に追い込まれ、信用不安は米国経済に波及し、経済のハードランディングの可能性も浮上している。今週に行われるFOMCについては、銀行不安によるリスクオフムードが漂う中、利上げの一時停止の可能性も市場では織り込まれ始めている。また、今回のFOMCでは金利の見通しであるドットチャートも発表される。前回12月に発表した予想政策金利に比べどのくらい予想が変わるのか注目度は高い。いずれにしても米国における金利の先高観が後退している中、ドル/円は下落しやすい環境が継続しそうだ。なお、今週は21日(火)に米2月中古住宅販売件数、23日(木)早朝にFOMC結果発表、米2月新築住宅販売件数、24日(金)には米2月耐久財受注(速報)等の発表が予定されている。

(3)先週までの相場の推移

先週(3/13~3/17)の値動き: 安値 131.56 円 高値 135.10 円 終値 131.85 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第一チーム 多川 昇吾

(1) 今週の予想レンジ: 1.0500 ~ 1.0850 138.40 ~ 142.40 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は、欧州大手銀行の信用不安を受け週央に下落も、その後は値を戻した。週初13日、1.0682でオープンしたユーロ/ドルは、米地銀破綻の余波が残る中、関連報道で上下も、ドル/円下落が波及し1.07台半ばに上昇した。14日、ユーロ/ドルは材料に欠ける中、1.07台前半を主としたレンジ推移となった。15日、ユーロ/ドルは独金利上昇を受け、一時週高値となる1.0760に上昇も、欧州大手銀行に対する信用不安が市場を賑わし、独金利の急低下を背景に一時2か月半ぶりに安値となる1.0517まで急落した。16日、ユーロ/ドルは円買い・ドル売りが波及し1.06台前半へじり高推移。ただし、ECB政策理事会においては+50bpの利上げを決定も、利上げ見通しが示されなかったこともあり独金利は低下、1.05台半ばに急落。その後は独金利反転を受け、1.06台を回復した。17日、ミュラー・エストニア中銀総裁の、次回も利上げを示唆との発言を受け、ユーロ/ドルは1.0670まで上昇後に、一時ユーロが売り戻される場面もあったが、米3月シシガン大学消費者マインド(速報)並びに同指数の期待インフレ率が予想を下回ったことでFRBによる利上げ期待も後退し、ドル売りが強まる流れにユーロ/ドルは再び1.0670台を回復した後、1.06台後半で越週した。

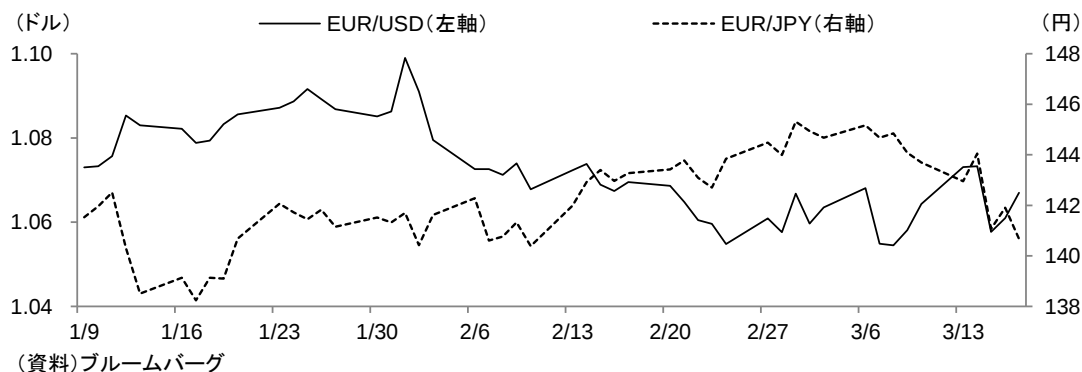
今週のユーロ相場は軟調推移を予想する。16日のECB政策理事会では、市場予想通り+50bpの利上げが決定された。一方で声明文における次回利上げに関するフォワードガイダンスが削除された事実が、独金利低下を招いたことでユーロ買いの動きは極めて限定的となったこともあり、現状におけるユーロ買い妙味は少ないのではなかろうか。また、欧州大手銀行信用不安の影響については、スイス中銀からの資金調達に関するポジティブな報道にも市場の反応が限定的だったことから、しばらくは色濃く残るリスクと捉えられており、リスクオフムードの中では対ユーロでのドル買いが優勢となるだろう。今週はラガルドECB総裁をはじめとするECB高官らによる発言機会も多く、焦点となるのは足許の欧州大手銀行信用不安を受けた5月以降の政策路線への言及があるか否か。今後の金融政策動向を見通すうえでも、これらの発言内容には注目しておきたい。その他、20日(月)ユーロ圏1月貿易収支、独2月生産者物価指数、21日(火)独3月ZEW景気期待指数、22日(水)ユーロ圏1月ECB経常収支、23日(木)ユーロ圏3月消費者信頼感(速報)、24日(金)ユーロ圏3月製造業/サービス業PMI(速報)などの発表を控える。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(3/13~3/17)の値動き:

(対ドル) 安値 1.0517 高値 1.0760 終値 1.0666

(対円) 安値 139.15 高値 144.93 終値 140.59



3. 英ポンド

欧州資金部 鶴田 涼平

(1) 今週の予想レンジ: 1.1950 ~ 1.2300 159.50 ~ 163.50 円

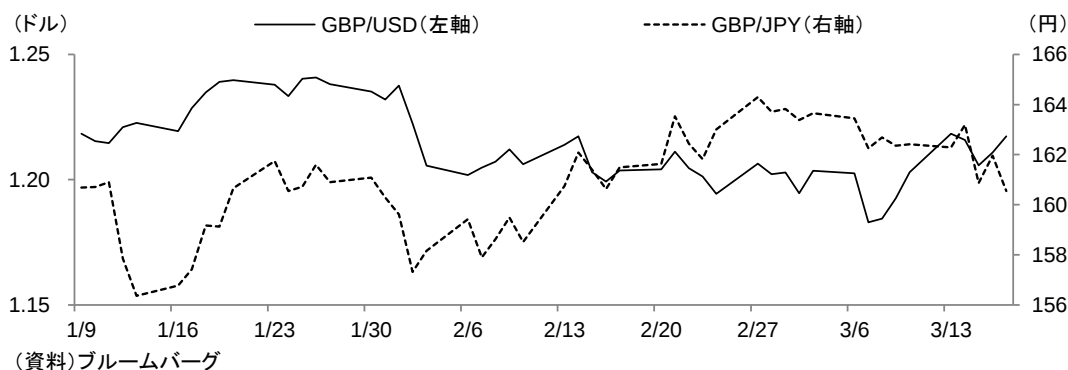
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、対ドルで上昇した一方、対円で下落する展開。週初13日、対ドルで1.20台前半、対円では162円近辺でオープン。米地銀経営破綻に関し、早期に支援策が表明されたことで、アジア時間は一時的に緊張が緩む中で前週末売られたクロス円が買い戻される展開となり、ポンド/円は163円近辺まで上昇。ただ、米地銀の相次ぐ破綻による金融不安は根強く、海外時間にかけて再度緊張感が高まりを見せ、年内複数回の利上げを織り込んでいた米金利がむしろ複数回の利下げを織り込みに行く、ややパニック的な動きとなり、値幅を伴ってドル売りが加速。ポンドは対ドルで1.22近辺まで上昇した一方、対円では160円台前半まで下落。14日、過度な悲観ムードが和らぐ中で再びクロス円で上昇する格好に、ポンド/円は163円台後半まで反発。ポンド/ドルも連れ高となり週高値となる1.2203まで上昇。米2月消費者物価指数は概ね市場予想通りの内容となり動意は付かず。15日、前日からの流れの中でポンド/円は週高値となる164円近辺まで上昇するも海外時間に入って一変。欧大手金融機関への筆頭株主による追加支援がないとの報道を機に金融不安が再燃する格好にスイスフラン/円主導でクロス円が値幅を伴って下落。ポンドは、ハント英財務相による「今年のリセッション入りはない」との発言に下げ渋る場面があるも、対ドル・対円ともに週安値となる1.2012、159円台半ばまで下落。16日、欧大手金融機関に対する当局支援が表明され懸念が後退するも米地銀が身売りとの報道を受け金融不安が再燃。ポンドは対ドル・対円ともに週安値近辺まで下落する場面が見られるも、複数の米大手銀行が支援に乗り出すとの報道が伝わりとポンドは対ドルで1.21台前半、対円で162円近辺まで上昇。17日、週間を通じて乱高下を繰り返した米金利が特段目立った材料なく週末リスクを意識した動きか、じりじりと低下。為替は米金利低下の動きに連れて全般的にドル安となり、ポンドは上昇。結局、対ドルでは週高値近辺となる1.21台後半、対円では160円台半ばで週末を迎えた。

今週の英ポンド相場は上値の重い展開を予想。先週マーケットの中心ドライバーとなった連鎖的な金融不安は、各国当局から即日支援策が表明される迅速な対応にマーケットの緊張もすぐに緩む反応を見せており、ここから一段と過熱するイメージはなく、不安感が完全に払しょくされることはなかろうが、徐々に懸念が後退し材料感が無くなって行く展開が基本線。一方で今週のメイン材料となるのがFOMC。ブラックアウト期間入り直前のパウエルFRB議長による利上げ加速を示唆するタカ派発言に3月+50bpと更に年内+50bpの利上げが織り込まれていたところから足許では、3月利上げの織り込みは+15bpに留まり、むしろ年内▲75bpの利下げが織り込まれている状況。ただ、米地銀の破綻は固有の事象であり、厳格な流動性規制を受ける大手金融機関と異なる環境を鑑みれば、ECBが前回会合でコミットした通り+50bpの利上げを決定したように、FRBも+25bpの利上げがメインシナリオ。一時期期待された+50bpでなくとも、FRBがハト派傾斜していないことが確認されれば、米金利上昇に伴ってドル買いが強まる展開が予想されるところ。来週はBOEも予定しており、こちらも利上げ織り込みが+25bpから+12bpまで低下している状況。今回の金利低下の要因となった金融不安が英金融機関に波及していないことを考えれば、前回の+50bpから大きくブレーキをかける理由は見当たらず、+25bpの利上げが基本線。こちらはポンド相場のサポート材料となり一時的に上昇する場面はあろうが、ドル主導の相場展開に上値は限定的。金融不安の後退とFRB利上げスタンスの再認識にドル高相場を予想する。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(3/13~3/17)の値動き: (対ドル) 安値 1.2012 高値 1.2203 終値 1.2181
(対円) 安値 158.57 高値 164.14 終値 160.56



4. 豪ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 上野 智久

(1) 今週の予想レンジ: 0.6600 ~ 0.6800 87.50 ~ 90.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場はリスクオフ地合いが後退する中で週後半にかけて堅調な推移となった。週初13日、前週の米大手地銀経営破綻を受けてFRBと米財務省、連邦預金保険公社(FDIC)が米大手地銀の全預金を保護する措置を発表。米銀行のシステミックリスクを巡る懸念が後退する展開となった。豪ドルは0.65台後半で取引開始後、米利上げ停止観測が高まり米金利低下・米ドル安の流れとなり、豪ドルは一時0.67台前半まで上昇した。翌14日、豪国債利回りが大幅低下する中でじり安の推移となったが、一巡後は0.66台後半でもみ合い推移。15日、市場予想を上回る中国2月固定資産投資が発表された局面で人民元が買いで反応し、豪ドルもつれ高推移となったが、欧州大手銀行の経営不安を背景にリスクオフの流れが加速。豪ドルは一時0.65台後半まで下落。16日の豪ドルは豪2月雇用統計が失業率は約50年ぶりの低水準となるなど概ね良好な結果。同結果を受けた豪ドル買いに加え、スイス中銀が欧州大手銀行に対する流動性支援策を発表し、市場の安心感が醸成される中で堅調な推移となり0.66台半ばまでじりじりと値を上げた。17日、スイス大手銀行が前述の欧州大手銀行を買収することに原則同意し、またスイス中銀が最大1000億スイスフランの流動性支援をするとしたことから懸念が後退し豪ドルは0.67台へ戻した。その後も小確りとした推移となり0.67近辺で超週している。

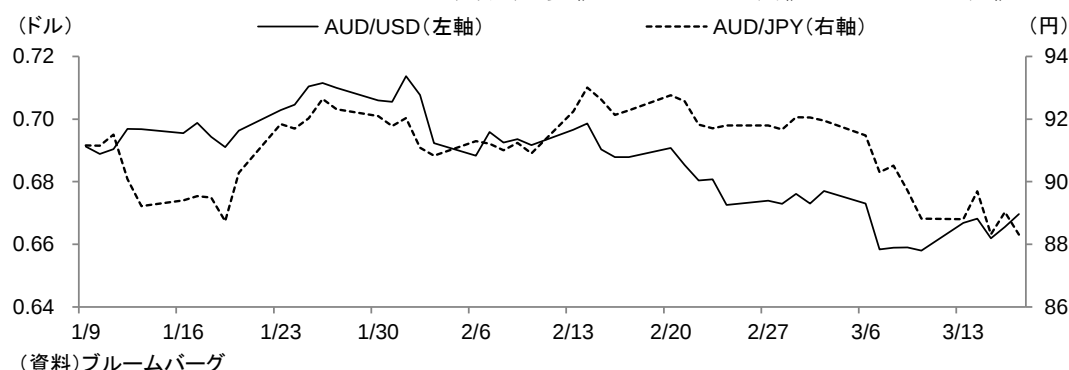
今週の豪ドル相場は底堅い展開を予想。先週の豪ドル相場は世界的な金融不安をメインピックスに、リスクセンチメント動向に浮沈する展開となった。金融不安に関しては震源地となった米・スイスにおいて金融当局が流動性支援などを行い事態悪化を防ぐとともに、主要6中銀(FRB、日本銀行、ECB、BOE、カナダ中銀、スイス中銀)がドルスワップ協定を通じた流動性供給で協調することが発表されるなど矢継ぎ早な対応が行われており、信用収縮等の金融を巡る懸念が後退している状況となっている。金融不安の懸念後退は豪ドルにとっては安心材料であると考え、豪中銀の利上げ停止観測も相応に高まっている中で、豪ドル主体で相場が上昇する局面も考えにくい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(3/13~3/17)の値動き:

(対ドル) 安値 0.6587 高値 0.6725 終値 0.6699

(対円) 安値 87.36 高値 90.20 終値 88.31



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。